

実りの実体験・実体験の実り

2 学期も折り返しの時期になりました。朝、息が白く見える日がありました。青空のもと、モズの高鳴きの声が響いています。三小の周りは、季節の移り変わりを肌で感じられる貴重な場所だと思います。

この時期は、教室での学習も着実に進め、豊かな学びを身につけるには1年で最もいい季節です。それに加え、修学旅行、遠足、社会見学、町めぐりなど、学校の中だけではなかなかできない学習を各学年で行います。教室で学んだり考えたりしたこと、実際に現場で見聞きした意見したことが一つになって生きた学びとなるものだと思います。

10月22日には5年生の稲刈りが行われました。桜井実行組合、第三地域住民委員会のみなさまの全面的なご協力があるからこそできる学習です。子どもたちは社会科で農業について学んできましたが、その知識に加えて、田植えの時の泥の感触や細いけどしっかりと



した苗の様子、稲刈りの時のたくさんに増えた株の様子、刈り取るときの音や香り、迫力あるコンバインでの脱穀などの記憶が一体となって、お米のおいしさや米作りのありがたさを感じることができるのだと思います。米作りの本当の苦勞まで体験することは難しいですが、そのことに思いをはせることのできる人を育てたいものです。今の私たちに最も足りないところを地域に教えていただけるこのような場は三小の欠くべからざる一シーンとしてつないでいきたいと思っています。

10月30日・31日は6年生が修学旅行で広島に行きます。ヒロシマでしか吸えない空気を胸いっぱい吸って、様々な思いを自分のものにしてほしいと願っています。

校長 加藤 武

パラリンピックキャラバン体験講座

10月5日(月)5,6年生対象に、4名の講師をお招きしてパラリンピックキャラバン体験講座をおこないました。車いすバスケットを通じて、児童に人として大切な想いを熱く伝えていただきました。

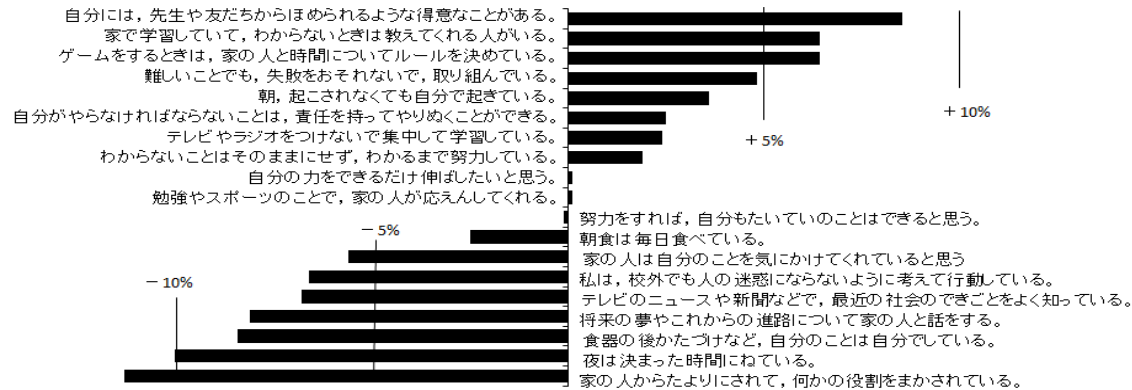


学習状況調査結果から

5年生と6年生で行われた学力・学習状況調査のうち、意識や学習環境にかかわる項目をピックアップしました。中央のラインが全国平均を示し、右に伸びていけば上回り、左に伸びていけば下回っているということになります。学年により違いはありますが、長い文章を苦にする子が少ないこと、新聞を読む子が多いこと、家で教えてくれる人がいること、ゲームをするときのルールが定められていることなどが三小子どもたちの強みと言えます。一方で、社会に対する関心の低さ、家庭での家族のつながりが薄いと感じている子がいること、家での役割が少なく自分ですべきことも家の人にしてもらっている姿などがやや弱い面ではないかと思われます。

もちろん、これは全体の数値ですので個々の子どもたちに当てはめて考えることはできません。しかし、子どもたちの家庭や学校での生活をより豊かにしていくヒントは隠されているととらえるべきだと思います。一度見直してみませんか。

5年生学習状況調査結果グラフ(抜粋)



6年生学習状況調査結果グラフ(抜粋)

